

生田の風

「継承～途切れることのない生田の輪～」 校長 山崎 恵子

本校は、昭和 22 年に制定された新しい学校制度とともに、川崎市内に開設された 16 校の中の 1 校として開校しました。開校当時の生徒数は 334 名。1 年生から 3 年生まで揃っていたのは、近隣では生田中学校だけで、3 月には第 1 回卒業式が行われ、98 名の卒業生（1 期生）を出しました。その後 70 年の歴史を重ね、今年 3 月卒業の 70 期生まで、卒業生総数 16,559 名が本校を巣立ちました。

開校当時中学生だった方々が、そのときの様子を 60 周年記念誌に残されていますので、抜粋してご紹介させていただきます。

【1 期生(開校時の 3 年生)】

月日の経つのは早いものです。私たち 1 期生が生徒として生田中学校に入学したのは、昭和 22 年 5 月で、設立認可が 5 月になったためである。小学校入学が昭和 14 年。3 年生の時に大東亜戦争が始まり国民学校となった。国民学校初等科 6 年、高等科 1 年 2 年と進み、青年学校を経て兵隊さんになるのが常であった。当時は、農家などに勤労奉仕、田んぼの中に入って田植えの仕事、万能鋤を振るい、お国のために勉強よりも農作業に励んだ。私たちは、高等科 1 年の時に終戦。青年学校もなくなり新制中学校（生田中学校）へ進学となるのである。初年度の中学 2・3 年生は義務ではなく、大部分は進学せず高等科だけで終わった者が多かった。

柿生・稲田地区は（柿生中学校と稲田中学校も昭和 22 年に開校した学校）は 3 年生の収容能力がなく、柿生からは、黒川・栗木地区から早野・王禅寺地区まで、稲田からは、菅・中野島地区から登戸・宿河原・久地・堰地区までの生徒が生田中学校に通った。黒川から柿生駅まで雨の日も風の日も歩き、電車に乗って東生田駅（現在の生田駅）まで、さらに学校まで。雪の日は想像しただけでも大変さが判るではないか。私も当時の西生田（現在の読売ランド前）から東生田駅まで乗った。電車も二両編成で 30 分間隔。混雑も甚だしく連結器の上に乗って人が乗っていた。今のように通路になっておらず、連結器そのものの上である。当時は今よりも踏切は多くあったが警報器もなく、主要のところだけ踏み切り番がいた。

【3 期生】

私たちは平成 22 年に発足した戦後の義務教育 6・3 制の最初の 1 年生として入学し、3 期生として卒業しました。新制中学最初の校舎は軍の実験所と言われていた所で、時にむしろの上での勉強。机・椅子が足りなくて溝の口まで往復徒歩で運んでくるなど、学習環境を整えることから始まりました。教科書は一枚の大きな紙に印刷されたものを各自が切り、綴じて使いました。地域性を生かして頑張りました。長距離走や駅伝は優勝。市内で生中（なまちゅう）と呼ばれていたものが生中（いくちゅう）になりました。野球は、生田小の運動場で練習。「6・3 制、野球ばかりがうまくなり」と言われながら頑張ったものです。

【8 期生】

昭和 27 年、生田小、西生田小の人たちと生田中に入学する。西生田小の人たちは歩いて通うことが多かった。電車通学はほとんどなかった。中学校は旧陸軍の古い建物を改造したものであった。廊下など、穴が開いたりして、その修理などをしたことが思い出される。運動場も冬、春など風の強い日は、土ほこりで教室が砂だらけになっていた。プールは、戦時中の防火用水を利用して。他の用水には、水を飲みに来た狸が落ちていたこともあった。

【10 期生】

学校の前は広い畑で農家が 2 軒あるのみ。春には桜が咲き乱れ、秋には運動場の向こうのススキ野原が銀色に輝き、とても美しかった。学舎は旧陸軍の木造建物を転用したもので、廊下は天井板もなく、太い柱には「信義」「友愛」「明朗」と、大きな紙に書いた目標が掲げられていた。同学年は 3 学級で 1 学級約 60 人。教室は机がびっしり並び、後ろの席では隣の教室の声の方がよく聞こえた。

最後の卒業式だけは新築中の校舎で行われた。同期会で母校を訪れたとき、周囲の変わりようには驚いたが、私たちの卒業記念寄贈の朝礼台が 50 年以上経った今も現役で使用中心と聞きうれしく思った。

校章の三稜の栗の葉に象徴され、校歌に示されている「信義」「友愛」「明朗」の精神は、本校の伝統と誇りとして今日まで脈々と受け継がれています。創立 70 周年記念テーマは「継承～途切れることのない生田の輪～」、そして記念誌のタイトルは「道」。生徒が伝統を大切に思い、さらにその上に自分たちの道を創ろうと決意している様子が伝わります。



みんなで創る生田の文化祭

文化的行事委員長 三浦 芳子

今年度より「文化祭」から「生創祭」に名称が変わりました。みんなで創る生田の文化祭という意味が込められた名称です。生徒たちが全員で案を出し合い、決まった名称です。また、委員会の見直しも行われ、「生創祭実行委員会」が立ち上がりました。実行委員会が、主となって「文化祭＝生創祭」を考え、舞台裏を支え、動かししました。展示の部では、見る時間が足りないという声があったほどの充実した発表で、どの作品も思いがこもっている素敵なものばかりでした。演示の部では、教科、有志、部活動の発表がありました。今まで積み重ねてきた成果をどの団体も熱心に発表している姿がとても印象的でした。それを鑑賞する態度も温かく、素晴らしかったです。また、今年度は、70 周年記念として卒業生であるジャズピアニストの国府弘子さんをお招きし、記念演奏をして頂きました。本物の音色に癒され、国府さんが奏でる音楽に元気を頂いた人も多かったかと思います。吹奏楽部とのコラボ演奏も圧巻でした。生徒会・中央委員会が企画・運営した 70 周年を祝う会、全校生徒が手がけたステンドグラスの制作発表。今年も生徒から大好評！おいしかった栗の木広場。盛りだくさんの生創祭でした。今までより生徒主体となり、生徒が大活躍した 2 日間だったと思います。生徒が、生き生きと活躍する姿は嬉しいです。生中生かっいいい！これからますます生徒が主体となって考え、活動する学校であってほしいと願っています。



国府弘子さんをお迎えして

吹奏楽部顧問 廣上 倫介

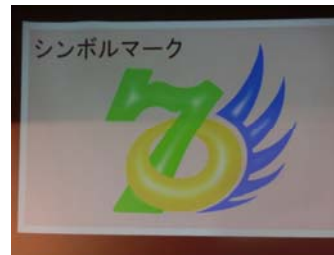
「ラプソディ・イン・ブルー、お願いしようと思うけど・・・」と私。諸手を挙げて「賛成！」と吹奏楽部の面々（主に3年生）。決まったはいいけれど、夏休みから準備を始めて、山あり谷ありの練習。自信のない中で臨んだ本番。でも一緒にステージに立って感じたのは、大きな包容力とステージに広がるHappyな雰囲気。「多少の失敗なんて気にしないで！みんなまとめて乗っかっておいで！」と聞こえてきそうな力強く、優しいピアノ。私たちの未熟さや緊張感を包み込むピアノ。おかげで私たちは全力で演奏に臨むことができました。そして貴重で幸せな時間を過ごすことができました。ソロ演奏の中でも、インタビューでもたくさんのメッセージを私たちにいただきました。国府さんの素敵な人柄に触れ、「生田中でよかった！」と思うことができた生創祭でした。

「70周年を祝う会」から見たもの

生徒会担当 西村 翔

70周年を祝う会では、70期生徒会本部が中心となり、流れを考え、練習計画を立てました。劇の台本やパワーポイントの写真選び、原稿作成など様々なことを生徒自身で考えて創りあげました。スタンドグラス制作では、全校制作がしたいという思いがありました。4月に係を募集し、生徒がテーマに沿ったデザインや配色を考え、各クラスで協力してもらい、全校で制作することができました。当日のお披露目のときの体育館の雰囲気が忘れられません。祝う会・スタンドグラス制作ともに生徒が主体となって活動し、やはり生徒の力は凄いということを実感することができました。

思い出のスナップ写真



そして スタンドグラス



11月の予定

日 曜	11月行事予定
1 水	専門委員会 3年進路面談③
2 木	特別時程 家庭科研究授業 *昼清掃 リーダー研修会(宮崎青少年の家)
3 金	文化の日
4 土	県駅伝大会
5 日	(県駅伝大会予備日)
6 月	3年生保護者進路説明会 13:30~
7 火	
8 水	3年後期中間テスト① 美・国・英 特別支援学級連合遠足
9 木	3年後期中間テスト② 保体・音・理 3年写真撮影 *部活動なし
10 金	3年後期中間テスト③ 技家・社・数
11 土	多摩区防災訓練 三田っ子フェスティバル
12 日	
13 月	*部活動なし
14 火	川崎市学習診断テスト *部活動なし
15 水	昼食なし・清掃なし・部活動なし
16 木	特別時程 技術科地区研究会 *昼清掃
17 金	環境確認・環境整備
18 土	地域教育会議(教育を語る集い)
19 日	
20 月	生徒集会 特別時程 *昼清掃 美術科本発表 *部活動なし
21 火	特別時程 小中交流体験
22 水	試行給食① *部活動なし
23 木	勤労感謝の日
24 金	臨時生活委員会
25 土	
26 日	
27 月	朝会
28 火	試行給食②
29 水	臨時生活委員会
30 木	3年進路面談① 13:40~

